

JFMAフォーラム2011

# ワークプレイスと知的生産性

## ワークプレイス進化モデルへのチャレンジ

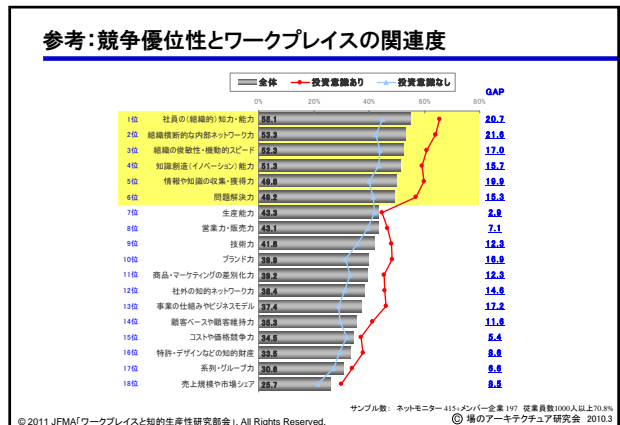
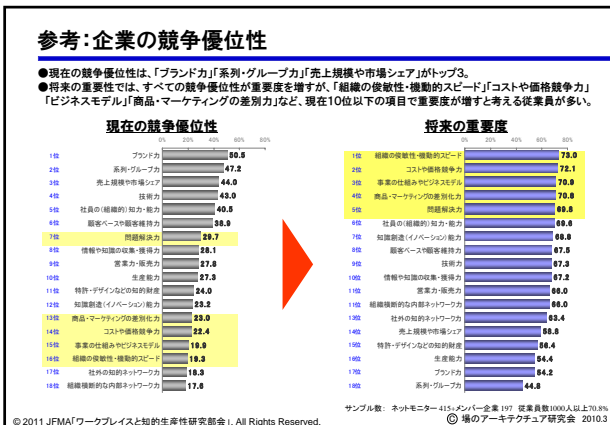
オフィス・ワークプレイスの知的生産性研究部会

1. 研究の背景
2. 方向性とゴール
3. 中間報告(進化モデルのアウトライン)
4. 今後について

# 1. 研究の背景

## 変わる生産性とワークプレイス

© 2011 JFMA「ワークプレイスと知的生産性研究部会」, All Rights Reserved.



## ファクトと問題意識

1. 望ましい働き方、求められる生産性の質は変化している
2. 生産性とワークプレイスの関係は複雑で多様だが深い相関があることは明らか

3. 知的生産をサポートするワークプレイスのあり方は多様であり他社比較は難しい
4. しかし、知的生産がワークプレイス構築の重要な目的である以上、評価検証・運営進化するためのガイドラインは必須

ワークプレイスを「知的生産」の軸で段階的に評価検証できないか

© 2011 JFMA「ワークプレイスと知的生産性研究部会」 All Rights Reserved.

## 2. 方向性とゴール

## 現状

例)クラウド、スマートフォン、次世代通信\*\*等、技術の進化スピードは加速しているが、モバイルワークやテレワークはそれほど浸透せず・・・



なぜか？

手段はたくさんあるが、コンプライアンスや会社システムとの整合が難しいことや投資対効果をはっきり示しにくいから・・・

© 2011 JFMA「ワークプレイスと知的生産性研究部会」 All Rights Reserved.

## 知的生産性を阻害するワークプレイス(よくあるケース)

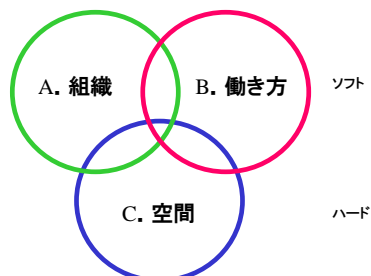
- 組織がタコソバ化して知識が共有されない
- 組織に活気がなく新しいアイデアが出ない
- 組織間に結束がなくバラバラ
- 多様性に乏しく画一的
- 部門以外の社員と交流する機会がない
- 無機質で変化やゆらぎがない
- 必要ときに必要な情報にすぐにアクセスできない
- 景色の変化がなく気分転換できない
- オフィス外にいたることが多くてもシームレスに仕事ができない
- 一日ずっとPCに向かうだけで外部の情報が入ってこない
- 時間間隔がなく、だらだら仕事をすると疲労が溜まる
- 明るすぎて常に覚醒状態、ストレスが溜まる
- 周囲のざわつきが気になって集中できない
- 室内温度や空気が不快で集中力が下がる
- 机の上が書類だらけで整理整頓ができない



© 2011 JFMA「ワークプレイスと知的生産性研究部会」 All Rights Reserved.

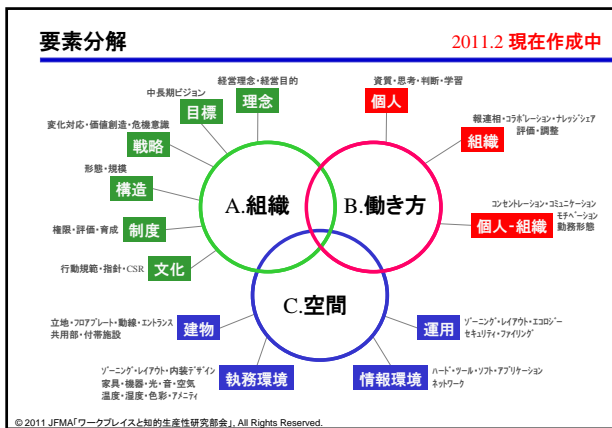
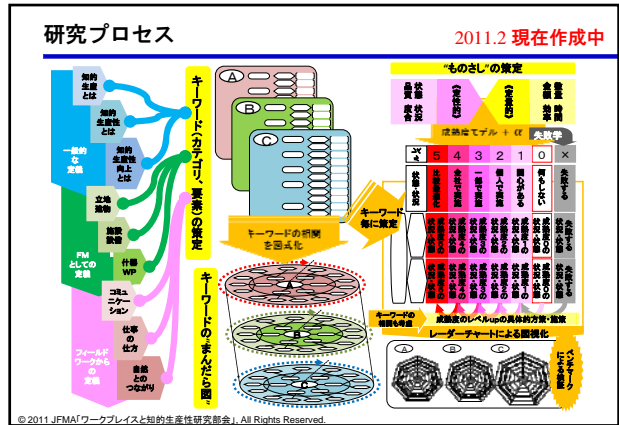
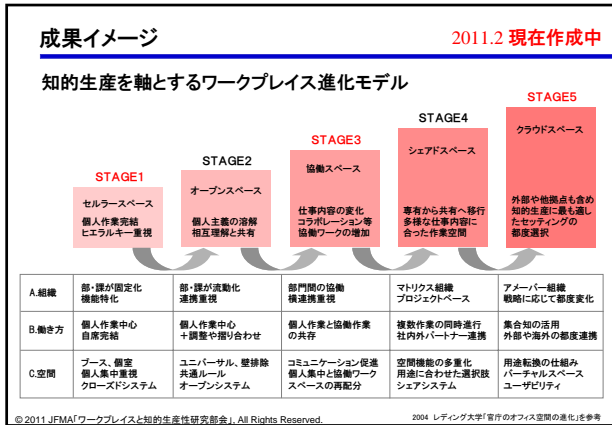
## 研究の方向性

知的生産をサポートするワークプレイスの評価・進化モデルをつくる  
3つの整合とバランスが重要



© 2011 JFMA「ワークプレイスと知的生産性研究部会」 All Rights Reserved.

## 3. 中間報告



### 各レベルの状態を決める 2011.2 現在作成中

	STAGE.0	STAGE.1	STAGE.2	STAGE.3	STAGE.4	STAGE.5
組織						
理念	無関心	理念があるが、社員に浸透されているか、社員が理解しているか	理解・浸透			
目標	曖昧	明確な目標があるか、目標が共有化されているか 評価見直ししているか	明確・共有			
戦略	固定	戦略があるか、柔軟な対応できる戦略か	柔軟			
構造	硬直	変化に対応できる弾力性をもっているか	弾力			
制度	画一	多様な制度を持ち、常に更新できる仕組みはあるか	多様			
文化	ばらばら	共有する組織文化があるか	共有			

© 2011 JFMA「ワークプレイスと知的生産性研究部会」 All Rights Reserved.

### 各レベルの状態を決める 2011.2 現在作成中

	STAGE.0	STAGE.1	STAGE.2	STAGE.3	STAGE.4	STAGE.5
個人	単眼	複眼的な判断と行動がとれるか(いろいろな価値観を前提)	複眼			
組織	単独	多様な組織を構成して協働ワークができるか	協働			
個人・組織	個人力	個人力を組織化して有効に活かしているか	チーム力			

© 2011 JFMA「ワークプレイスと知的生産性研究部会」 All Rights Reserved.

### 各レベルの状態を決める 2011.2 現在作成中

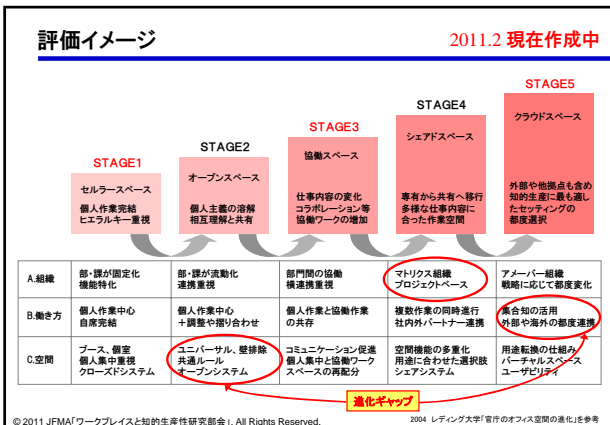
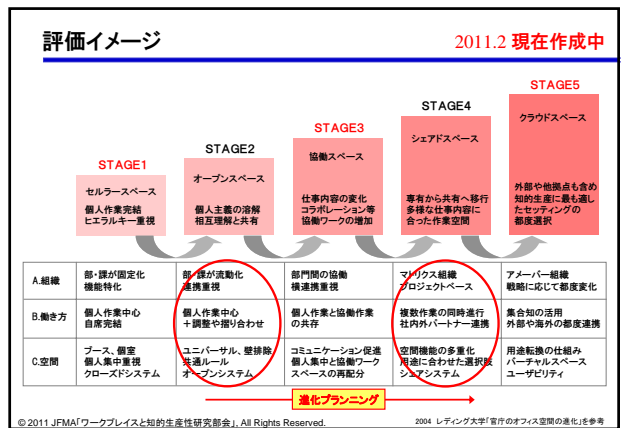
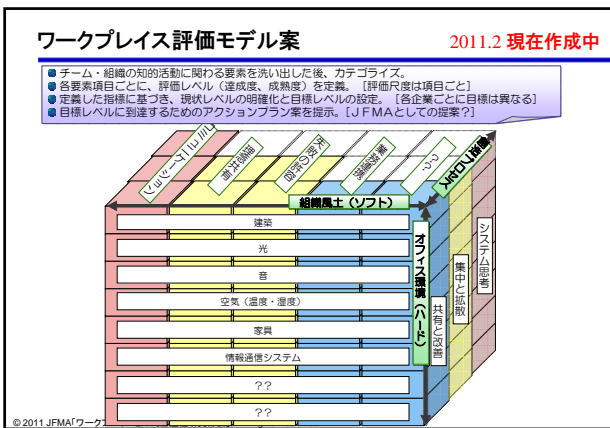
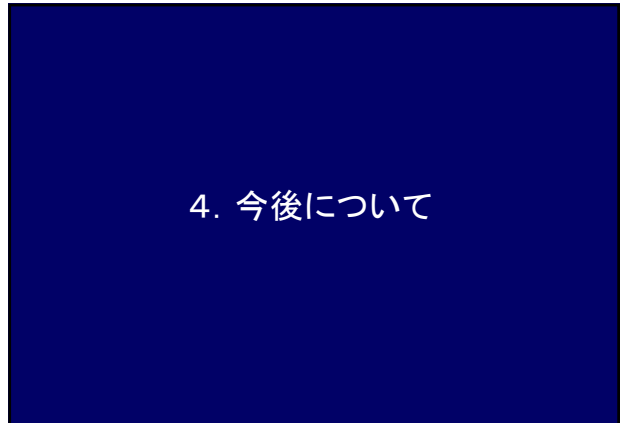
	STAGE.0	STAGE.1	STAGE.2	STAGE.3	STAGE.4	STAGE.5
空間						
建築	固定	多様なニーズに対応し更新できるか	柔軟			
執務環境	画一	多様なニーズに対応し更新できるか	多様			
情報環境	固定	多様なニーズに対応し常に最適な環境が構築できるか	柔軟			
運用	画一	多様なニーズに柔軟に対応できるか、更新する仕組みがあるか	多様			

© 2011 JFMA「ワークプレイスと知的生産性研究部会」 All Rights Reserved.

### 進化モデルのアウトライン 2011.2 現在作成中

建築:	S0	S1	S3	S5
①立地(利便性)	組織戦略を配慮していない個人のワークスペースも配慮していない。	組織戦略との整合の必要性は理解しているが実現していない。また個人のワークスペースの利便性の関係は認識しているが、対応していない。	組織戦略への配慮はされているが、個人のワークスペースへの配慮はされていない。また個人のワークスペースの利便性の関係は認識しているが、対応していない。	組織戦略と合致し、かつ個人のワークスペースが最も考慮されている。
②立地(環境)	業務特性を配慮していない個人のワークスペースも配慮していない。	業務特性への適合の必要性は理解しているが実現していない。また個人のワークスペースの利便性の関係は認識しているが、構築していない。	業務特性への配慮はされているが、個人のワークスペースへの配慮はされていない。また個人のワークスペースの利便性の関係は認識しているが、構築していない。	業務特性に適合し、かつ個人のワークスペースが最も考慮されている。
③フロアプレート	組織運営とフロアプレートとの関係を考えていない。	組織運営とフロアプレートとの関係は認識しているが実現していない。	組織運営を配慮した構成・環境のフロアプレートを実現しているが、現実には有効かつ柔軟に対応できていない。	組織運営が有効に行える構成・環境のフロアプレートである。かつ必要に応じて柔軟に対応できている。
④動線	組織運営と動線との関係を考えていない。	組織運営と動線との関係は認識しているが構築していない。	組織運営を配慮した動線を構築しているが、現実には有効にはたっていない。	組織運営が有効に行える動線・経路の動線である。
⑤****	*****	*****	*****	*****
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

© 2011 JFMA「ワークスペースと知的生産性研究部会」 All Rights Reserved.



### H22年度 活動計画

- ◆フレームワーク
- ◆ベンチマーク調査
- ◆国内外ワークスペース・リサーチ

研究会メンバーは、建築設計・不動産・インテリア・オフィス機器・研究者 ICTコンサルティング...など多様性に富んでいるのが特徴です。

基本は月1回、研究会を開催しています。  
ご興味ある方は、ぜひご参加ください。

© 2011 JFMA「ワークスペースと知的生産性研究部会」 All Rights Reserved.